2025 年 7 月【質問者】一般質問　要約

第 2 期長期総合計画の評価と今後の市政運営に関する一般質問のまとめ（五島誠 議員）

---

1. 議論の前提となる市の現状と取り組み（事実ベース）

市の答弁から明らかになった、市の現状認識とこれまでの取り組みは以下の通りです。

- **市のこれまでの具体的な取り組み**:
    - **長期総合計画**: 第 2 期庄原市長期総合計画に基づき、各施策を推進。現在は第 3 期計画を策定中。
    - **人口減少対策**: 国の地方創生方針に基づき、東京一極集中の是正と地方への人の流れを作るための施策を実施。
    - **情報公開**: 市民アンケートや各部署の自己評価を基に、第 2 期計画の効果検証を実施。
    - **ゼロカーボンシティ**: 令和 6 年 4 月に宣言し、「庄原市公共施設照明 LED 化計画」を策定。計画に基づき、公共施設の照明を LED に更新する事業を進めている。
    - **LED 化の手法**: 現在は、財政上非常に有利とされる「過疎対策事業債」を財源とした、従来の「工事発注方式」で事業を進めている。
- **市が認識している現状と課題**:
    - **第 2 期計画の評価**: 高齢者支援などの保健福祉分野では一定の成果があった一方、基幹産業である農林業の振興は、担い手不足や災害復旧の影響で目標達成が限定的であったと分析している。
    - **深刻な人口減少**: 計画目標人口 32,700 人に対し、実績は約 2,000 人下回る約 30,500 人。昨年度の人口減少数は過去 10 年間で最大となった。特に、20 代の若者人口が過去 5 年間で 20%以上減少している状況に危機感を持っている。
    - **国の動向**: 国の政策が、単に人口減少を食い止めるのではなく、「人口が減少しても成長できる地域社会」を目指す「地方創生 2.0」に転換したことを認識している。

- **施策効果の検証の難しさ**: 個別の施策が人口維持にどれだけ効果があったかを数字で明確に示すことには限界があると感じている。
- **LED 化の手法**: リース方式など他の手法の存在は認識しているが、現在の方式との費用対効果などを比較・分析する必要があると考えている。

2. 議員が提示した現場の現状と調査結果

五島議員は、市の公式発表だけでは見えない現場の実態や、過去の計画の問題点を指摘しました。

- **過去の計画目標の未達**: 6 月の所信表明で市長が掲げた人口に関する目標（合計特殊出生率 2.08、社会増減の均衡）は、10 年前に策定された第 2 期計画で達成できなかった目標とほぼ同じであると指摘。この事実から、「これまでと同じやり方を続けていては、目標達成は土台無理だ」と断じ、市政運営の根本的な見直しが必要だと主張しました。
- **形骸化する官民連携**: かつて「オール庄原」を掲げ、市民と行政が一体で人口減少対策に取り組むために設置された「人口減少問題をとことん考える民間会議」が、コロナ禍以降、行政との連携会議が開かれず休眠状態になっていることを指摘。市民と共同でまちづくりを進めるという市の姿勢が、実態を伴っていないのではないかと疑問を呈しました。

3. 議員の質問と市への訴えの要点

議員は、過去の計画の反省に立ち、より具体的で実効性のある市政運営を求め、以下の点を市に訴えました。

- **具体的な質問内容と提案**:
  - **抜本的な仕組みの改革**: 第 2 期計画の目標が達成できなかった根本的な原因を分析し、施策を小手先で変えるのではなく、行政の**「仕事の仕方」**や**「仕組みそのもの」**を**抜本的に改革**する必要があるのではないか。
  - **実質的な官民連携の再構築**: 「オール庄原」の理念に立ち返り、休眠状態にある民間会議との連携を再開するなど、市民と行政が**実質的に共同で政策を進める仕組み**をどう構築していくのか。

- **LED 化のスピードアップと手法の多様化**: 蛍光灯の生産終了が迫り LED 化が「待ったなし」の状況であるため、財政負担を平準化し、事業を迅速に進められる**「リース方式」の導入を真剣に検討**すべきではないか。

- **議員の最も強い訴え**:

  議員の訴えの根底には、**「10 年間、多大な努力をしても達成できなかった目標を、同じやり方で再び掲げるだけでは市民の希望は生まれない」**という強い危機感があります。単なる施策の羅列ではなく、行政運営の根幹にある「仕組み」を変革し、市民との「共同」作業を実質的なものにすること、そして喫緊の課題には財政的な工夫で「スピード感」をもって対応すること、この 3 点が、新しい市政に求められている姿勢だと強く訴えました。

4. 議員と市との間で活発に議論された場面

今回の質問では、今後の市政運営の「仕組み」と、具体的な事業手法である「リース方式」の導入を巡って、議論が白熱しました。

- **【議論 1】「仕組みの改革」に対する市の姿勢**

  議員は、「今までと同じことをやっていてはダメだ。仕事の仕組みそのものを抜本的に変えるべきだ」と、行政運営の根本的な変革を繰り返し求めました。これに対し市側（企画課長）は、「施策の組み立ての考え方を変える必要性は共有している」「データを構造的に捉え、仮説を立てる」など、計画策定の思考プロセスを見直す意向は示しました。しかし議員は、それでは不十分だとし、形骸化している「人口減少問題をことん考える民間会議」との連携再開など、具体的な行動を問いました。市は、コロナ禍で会議が開けなかった現状を説明するに留まり、今後の具体的な連携の形については「検討する」と答えるに終わりました。

- **【議論 2】LED 化における「リース方式」導入の是非**

  議員は、LED 化が待ったなしの課題である以上、初期費用が抑えられ、事業を迅速に進められる「リース方式」をなぜ採用しないのかと、市の判断に疑問を呈しました。市側（市長・企画課長）は、現在の「過疎対策事業債」を活用した工事発注方式が、長期的な財政負担で考えれば最も有利であるとの見解を説明。リース方式のメリットは認めつつも、ま

ずは両方式の費用対効果などを比較・分析する必要があるとして、即時導入には慎重な姿勢を見せました。これに対し議員は、「まずは比較検討のための調査・診断から始めるべきだ」と再度提案し、市も「庁内で是非を検討する」と応じました。

5. 市の答弁と今後の方向性

議論全体を通して、市は以下の姿勢を示しました。

- **直接的な回答**:
    - LED 化について、リース方式の即時導入はせず、まずは現在の方式との比較検討から始めるという回答でした。
- **今後の対応**:
    - **第 3 期長期総合計画**: 従来の延長線上ではない施策や、若年層に焦点を当てた施策を盛り込むことを「検討する」。
    - **官民連携**: 今後の連携の「形」については「検討する」。
    - **LED 化**: リース方式導入の是非について、庁内で「検討する」。
- **回答を留保した点**:
    - 議員が求めた行政の「仕組みの抜本的改革」について、具体的な改革案や方針は示されませんでした。
    - 休眠状態にある「人口減少問題をことん考える民間会議」の具体的な再開方法や今後の位置づけについては、明確な回答がありませんでした。
- **最終的な市のスタンス**:

  市は、過去の計画の目標未達と人口減少の現状を重く受け止めており、第 3 期計画ではこれまでとは違うアプローチが必要であるという認識は示しました。しかし、議員が求める「抜本的な仕組みの改革」や「具体的な新手法の導入」に対しては、即答を避け、「調査・検討する」という慎重な姿勢に終始しました。まずは、様々な選択肢を比較分析することから始めるという、堅実な方針が示された議論となりました。